

SOFIX (土壌肥沃度指標) - 樹園地/茶

依頼日：20XX/XX/XX

資料番号：ZZZZ

判定：(一社)SOFIX農業推進機構の基準に従う

試料名：茶園土壌 (〇〇様)

実測値および評価

生物性に関する項目 (物質循環に関する成分の実測値)

測定項目	単位	推奨値(樹園地/茶)	実測値	評価
◆総細菌数	(億個/g)	≧6.0	18.2	○
◆アンモニア酸化活性	(点)	≧5	99	○
◆亜硝酸酸化活性	(点)	≧70	100	○
◆窒素循環活性評価値	(点)	≧38	99	○
◆リン循環活性評価値	(点)	30 ~ 70	38	○
◆全炭素(TC)	(mg/kg)	≧25,000	59,880	○
◆全窒素(TN(N))	(mg/kg)	≧1,500	3,516	○
◆全リン(TP(P))	(mg/kg)	≧1,100	2,681	○
◆全カリウム(TK(K))	(mg/kg)	2,500 ~ 10,000	2,218	↓
◆C/N比		15 ~ 30	17	○
◆C/P比		10 ~ 20	22	↑

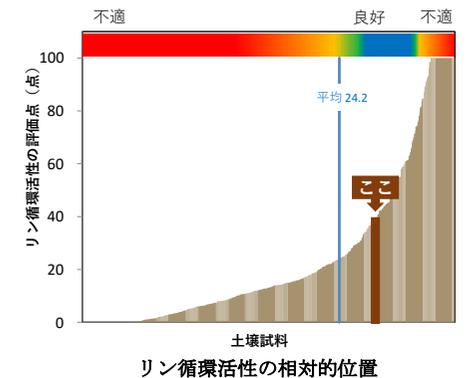
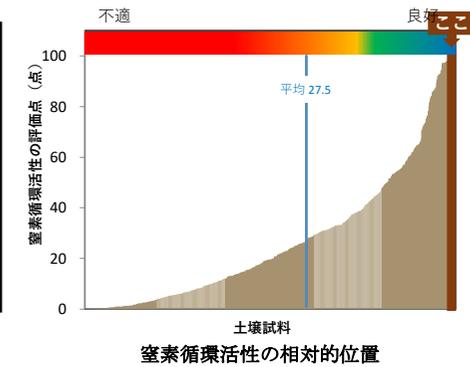
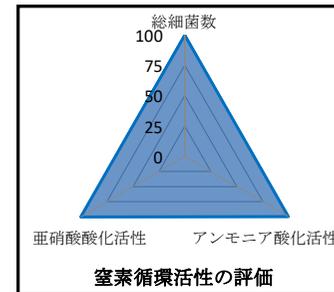
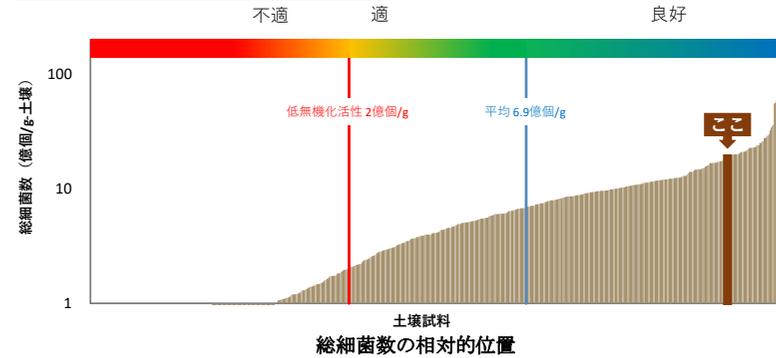
化学性および物理性に関する項目

測定項目	単位	推奨値(樹園地/茶)	実測値	評価
●硝酸態窒素 (乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	74	○
●アンモニア態窒素 (乾燥換算)	(mg/kg)	≧10	4	↓
●可給態リン酸				
・P ₂ O ₅ 換算 (乾燥換算)	(mg/kg)		3,489	
・P ₂ O ₅ 換算 (現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	1,758	○
・P(現状で水分を含む)	(mg/kg)		768	
●交換性カリウム				
・K ₂ O換算(乾燥換算)	(mg/kg)		899	
・K ₂ O換算(現状で水分を含む)	(mg/kg)	≧100	453	○
・K (現状で水分を含む)	(mg/kg)		376	
●pH		3.0 ~ 5.0	5.6	↑
●EC	(dS/m)	0.2 ~ 1.2	0.30	○
○含水率	(%)	≧20	50	○
○最大保水容量	(ml/kg)	≧400	1,266	○

●化学性に関する項目、○物理性に関する項目

基準更新：2020年4月

データベースに基づいた評価





パターン判定—樹園地/茶

評価

試料名：茶園土壌（〇〇様）

表1. 土壌肥沃度判定

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆総細菌数	(億個/g)	18.2		≧4.5	
◆全炭素 (TC)	(mg/kg)	59,880		15000~80000	
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	3,516		≧1,000	
◆窒素循環活性評価値	(点)	99		≧25	
◆リン循環活性評価値	(点)	38		30~80	
◆C/N比	-	17		10~27	

<パターン1>

評価 <特A①>

良好な有機土壌環境

原因

非常にバランスのとれた有機環境土壌になっている。適切な管理により維持することが重要である。

土壌の改善を行う場合、上記の各項目が「最適」になるよう、適切な資材選定と施肥・管理を行うことが重要です。具体的な施肥設計をご要望の場合は、当機構までお問い合わせください（有償となります）。

表2. 植物成長に影響する項目

測定項目	単位	実測値	低	適	高
◆全窒素 (TN (N))	(mg/kg)	3,516		≧1,000	
◆全リン (TP (P))	(mg/kg)	2,681		≧1,100	
◆全カリウム (TK (K))	(mg/kg)	2,218		2000~10000	

解説
(判定基準)

SOFIX（土壌肥沃度指標）に基づく判定基準（樹園地）を以下にお示しします。

表3. 土壌肥沃度判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値（樹園地）	高い
◆総細菌数	(億個/g)	<4.5	≧4.5	
◆全炭素 [TC]	(mg/kg)	<15,000	15,000 ~ 80,000	>80,000
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<1,000	≧1,000	
◆窒素循環活性評価値	(点)	<25	≧25	
◆リン循環活性評価値	(点)	<30	30 ~ 80	>80
◆C/N比	-	<10	10 ~ 27	>27

※総細菌数・全炭素・全窒素・窒素循環活性評価値は基準値以上が望ましい。

※リン循環およびC/Nは、基準値以上の場合でも改善が必要である。

表4. 植物成長に影響する項目の判定基準

関連する項目	単位	低い	判定基準値（樹園地）	高い
◆全窒素 [TN (N)]	(mg/kg)	<1,000	≧1,000	
◆全リン [TP (P)]	(mg/kg)	<1,100	≧1,100	
◆全カリウム [TK (K)]	(mg/kg)	<2,000	2,000 ~ 10,000	>10,000

※TPおよびTKは、基準値を超えた（高い）場合でも改善が必要である。

日本の樹園地の土壌は、この基準に照らして、大まかに8つのパターンに分類されます。パターン判定では、ご依頼いただいた土壌のSOFIX分析データに基づいて、どのパターンに該当するかをお示ししています。（表5）

表5. 8パターン分類

パターン	判定	原因の可能性
1 <特A①>	良好な有機土壌環境	非常にバランスのとれた有機環境土壌になっている。適切な管理により維持することが重要である。
2 <A②>	基本的に良好な有機土壌環境であるが、有機物がやや蓄積傾向でバランスが悪い	全炭素量(TC)と全窒素量(TN)の比率が適切でない。C/N比が10~27の範囲に改善することが重要である。
3 <A③>	基本的に良好な有機土壌環境であるが、リン循環が適正でない	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が多い。 ・総細菌数は十分だが、ミネラル量が少ない。 ・総細菌数は十分だが、全リン(TP)が少ない。 ・総細菌数は十分だがリン循環を担っている細菌数が少ない。 ・pHが適正でない。
4 <A④>	全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、物質循環活性が不適正	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・微生物の働きが悪い環境にある。 ・総細菌数は十分だが全炭素量(TC)・全窒素量(TN)が少ない、またはそれらのバランスが悪い。 ・総細菌数・全炭素量(TC)・全窒素量(TN)は十分だが、以下の原因が考えられる。 ・pHが低い。 ・水はけが悪い。 ・ミネラルの過不足等。
5 <A⑤>	全窒素量(TN)が不足傾向	農産物による窒素の消費、または雨水などによる流出が考えられる。
6 <A⑥>	総細菌数は十分だが、全炭素量(TC)が適切でない	全炭素量(TC)が低い場合、化学肥料・農業を用いる化学農法によるもの、または新規農地等が考えられる。全炭素量(TC)が高い場合、落葉により、有機物が蓄積されていると考えられる。
7 <B⑦>	有機物量は十分だが、総細菌数が少ない傾向	下記のいずれかの原因が考えられる。 ・全炭素量(TC)と全窒素量(TN)のバランスが悪い。 ・耕耘が十分に行われていない。 ・土壌燻蒸材等の農薬が残留している可能性がある。
8 <C⑧>	総細菌数が検出限界以下 (n.d. not detected) 6.6×10^6 cells/g 以下である	総細菌数がn.d.であるため、精密診断が必要である。

※1 「土壌づくりのサイエンス」 誠文堂新光社 P12参照 ※2 微生物は細菌を示している。